356

特241
595

非常時日本を背負ふ人々

第二輯

東京 政治公論社

定價十錢

①

0005030000

0005030-000

特241－595

非常時日本を背負ふ人々

近藤素明・著

政治公論社

昭和11

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月2日
けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

特241
595

目次

序文……（一）
久原房之助君……（三）
大谷光瑞君……（八）
深井英五君……（一二）
川崎卓吉君……（一四）
池下常五郎君……（一六）
安藤正純君……（一八）
永田秀次郎君……（二〇）
秋田清君……（二二）
中島知久平君……（二四）
砂田重政君……（二六）
永井柳太郎君……（二八）
大角岑生君……（三〇）
川島義之君……（三二）

序文

解散を裏む微妙な政局の氣運を載せて、全國民の視聽は今や第六十八議會の再開に臨む政府と、政黨との態度に重大の關心を拂ひつゝある。

岡田首相が新春劈頭に於ける三黨首訪問の儀禮を峻拒して、組閣以來の强腰を明示したことは、對議會策に重大の決意の存することを仄めかしたものと、觀察し得ると同時に、政黨の策動に一大鐵槌を下さんとする底意とも解せられる。

併し國民は今日に於ける現政府の跛行的態度に、全幅の信頼を繫ぎ得るであらうか。

五、一五事件以來、極度に鬱結した政界の妖雲を拂拭して、明朗な立憲政治の確立を期すべき一大使命の下に、齋藤内閣の衣鉢を繼いだ現内閣が、組閣以來、果して如何なる政見と、政策とを國民の前に提示したか。

未曾有の選擧肅正に、一萬一千と謂ふ恐るべき違反者を計上した外、寡聞の吾人に示されたものは、只、非常時局擔當の能力なき折紙と、顰蹙すべき弱體内閣の醜狀ではないか。

× ×

そして一面、政黨も亦、政府と同じく一切の見識と、節度を失つた形骸の譏りを、甘受しなければなるまい。三百名の頭顱を擁して、議會に絶對の權力を持ちつゝ、時局に隻言をも吐き得ざる政友會も、與黨にヤニ下つて、選擧に一陽來復を期する民政黨も、共に齊しく私黨の域を脱して、深刻なる現下の政情と、自己批判に、より鋭俊のメスを揮はねばならぬ。

吾人は徒に政變を好むものではない。況んや其の功績を忘れて、殊更に之を罵り、その存在を否定

せんとするものではないが、國民の存在を無視して、自己保存と政治的遊戯に沒頭する、現在の政局に違る瀬ない公憤を感ずるものである。

× × ×

政治家への品隲は、自惚れの幻影や、一時の感情的所產ではなく、公平な國民の審判であらねばならぬ。

軍縮會議の結末と言ひ、緊迫せる東亞の風雲と言ひ、之に處すべき膨脹日本の新しき政局は、斷じてなまくらの政治家に委すべきものではない。虛な一切の舊殼と、蝸牛角上の爭鬪を脫して帝國を一單位とする大乘の境地に、全國民の絕對的信頼を集めた、國民的强力內閣によつて、汎ゆる國難を打開せなければならぬ。

玆に於て始めて立憲政治の完璧を期して、上御聖諭に對へ、下一億萬同胞の安寧と、生活の充實を顯現し得るのである。

これ吾人が赤誠を披瀝して、帝國の重大なる使命を實行し得る不拔な信念を提げて、大義明分に終始する偉大なる國民的政治家の出廬と、無告の民聲を國政の上に反映せしむる國民的擧國政治の出現を翹望する所以である。幸に全國民の贊意を求むることを得ば、本社の喜び之に過ぐるものはない。

昭和十一年一月

政治公論社

本社固より大權の發動を私議するものに非ずして、非常時日本を双肩に擔つて起つべき、知名の人士を俎上に再檢、吟味して、最後に得たる、結論を錄するに止まる。幸に本社の微衷を諒せられんことを。

久原房之助君

× × ×

歷史の上に血湧き肉躍る幾多の祕話を載せて、素晴らしい一大エポツクを畫した維新の大業は、高杉や、坂本や、吉田の俠骨、才幹、明智に負ふ所勿論であるが、大西鄕の非凡の德望なかりせばと、思ふこと切である。

況して今日に於ける非常時日本は理論や、制度より、眞つ先に人物——新しき大西鄕を求めてゐる。小天地に踞躇した陰鬱な政界のトバリを開いて、世界に於ける帝國の存在に確然たる見透しをつけ之を實現する膽斗の如き人物を要求してゐる。この人にして始めて非常時局を乘切り、明日に於ける膨脹日本の政局を背負つて起つことが出來る。その偉大なる政治家を政界に求むれば、人多しと雖も先づ第一に久原房之助君を推さねばならぬ。

君は三井、三菱の巨商に匹敵すべき久原總本店の統帥者でその經營の豪膽さと、廣汎なる事業範圍を持つことに於て、現代その匹儔を見ざる有能の事業家である。

× × ×

政界入りをしたのは田中義一の推擧に基くもので、つひ先達てと言はねばならぬが、その僅の間に政界の先輩を踏み超へて、我國政界の最高峰にダイビングした恐るべき勢力と、躍進振りは正に驚異の標的である。

由來事業家は德望に缺け、德望高き事業家は技量に於て劣り、兩者兼備の事業家は殆んど稀有と言つて過言でない。本來事業は國家の利益と合一する德を以て立ち、德を以て大に

略歷

山口縣選出衆議院議員
前遞信大臣

興らねばならぬ筈であるが、理想は現實と屢々齟齬し、不德にして大に榮ゆるものゝあるのが、現下の實相である。かゝる社會は斷じて正常のものと稱し難く、時代の起伏に於ける畸型的の現象であるが、永い眼を以て之を見れば、不德にして榮ゆるものは、必ず自然の手によつて剪除されつゝある。

玆に於て「德者事業之基」と言ふ先哲の言に幽遠なる眞理の含まれてゐることを痛感する。

× × ×

人を害し、世を毒しても目前の利潤を追求することに專念する今日の事業家と、君は全くその軌を異にし事業經營の根本的意圖を常に大局的見地に据へてゐる。君の全貌を知らんとするものは、先づ君の經營する事業の核心を窺ひ、そこに流露する君の信念を知らねばならぬ。例ば常磐線助川に車を棄てゝ君の事業的搖籃地帶である、日立鑛山に杖をつくことである。

勞頭目を射るものは、怒濤脚下を洗ふ渺茫たる太平洋を眞下に俯瞰して、聳へ立つ大煙突と、一山、一町を包む廣袤の地域に櫛比する工場の偉容である。大煙突は鑛毒散逸のもので長さ一五五・七米、四十數萬圓の莫大の費用を投じた東洋一のものである。煙突の最上層を馬車が廻り得ると言ふのだからその規模の大きさは推して知るべしである。各工場は現代科學の精髓を網羅して、その間に一切の工程を完了する。その光景はさながらメトロポリスの映畫に現れる樣な、化學の極致を示した驚嘆そのものである。

× × ×

それ丈けに君が三十年來、自分の今日を育くんで呉れた鑛山に對する愛撫と、執着は自分の生命を擲つても惜しまないと明言してゐる。「鑛石の出ると否とに不拘、全能力を此所に

傾注して、久原の命のある限り、地球をぶつ通す迄掘り下げよ」と。何と言ふ、壯烈、悲悽な言葉であらう。こゝに燃ゆる樣な君の一貫した尊い信念を見出すことが出來る。

普通の人間なら君丈けの富と、地位を持てば門戸を鎖して樂隱居か、はしたない享樂を趁ふのが關の山であらう。然るに君は頭からその行き方を異にしてゐる。事業は國家の爲めに開放し、大衆と利益を按分せねばならぬ、と主張する君は久原鑛業に於ては全國津々浦々に跨り、一萬數千人に亘る尨大な株主を持つて居り、日產に於ても、公開コンツエルンと稱する組織を敷いてその遠大なる抱負の一端を示してゐる。君が內地は勿論、南洋、支那、シベリアの廣汎な地域を縱斷して、巨額の資本を投じ、卓越した材幹を世界に認めしめてゐることは、餘りにも有名であるが、幾十萬の使用人が今日迄只の一度も、ストライキは勿論、不穩の形勢のあつたことを聞かないのは、才能の妙と言ふよりも、君の豪放な親分肌の裡に包藏せられた、溫い德望の然らしむる所である。

× × ×

君の今日の勢威が「事業から湧き出る、黃金の水脈によつて益々旺盛なる勢力を誇示せしめてゐる」などと、嫉視する連中は正に愧死すべきである。併し金の存在を否定はしない。今日の資本主義的經濟組織の下に於て、金の伴はぬ生活は一日だつて出來るものではない。要はその使途にある。正宗の銘刀も、名人の手になければ、その眞價を發揮しない。金も亦その道と、使ひ手によつて、價値に霄壤の差が出來る。君の如きは正に銘刀を携へた、名劍士宮本武藏である。

君が國境の差別なく經營する尨大な事業の結果から悟り得た。眞諦は、皇道經濟論である。

その著書には誰にも解りよく、懇切に書かれてあるが一言にして盡せば、非常時の克服、明治維新の完成——昭和維新も同じ——は、三種の神器が皇室の天下をしろしめす、御象徵であらせられるが如く、鏡を表す理智であり、眞理である「經濟」と、玉を表す圓滿と情を意味する「政治」と、劍を表す力である「軍部」との精神が、一體となつて一切の障壁を拔いて、虛心坦懷に發揚されるのが、三位一體の政策であり、その味ひが天皇精神の發揚であると言つて、エゴイズムの悲哀を論じ、國民平等な利益の均霑を主張し、皇道精神に基く政策の遂行が、全世界の幸福なる所以を說いてゐる。

君の所論の樣に、皇道精神が萬世不滅の憲法であることに疑ひはない、政治も、經濟も、思想も此の精神を除外して絢爛な實を結ぶことは出來ぬ。還大な抱負であり、味ふべき深い含蓄がある。

× × ×

君が田中內閣以來、一國一黨主義を固く邁奉して、政治の對立抗爭を防ぐが爲めに政黨の聯携を棄して來てないのも、君の思想の中に脈々として波打つこの磐石の根柢があるからである。「君の一國一黨主義は、茫漠として曠野の如し」と評する向には、まだ〳〵君の大度量の內に飛び込む氣慨と、ゆとりを持たない從來の陋習になづんで、何時でも重箱の隅を楊枝でつゝいてゐる醜態である。

君が國策の研究に浚頭する精進は、驚くべきもので、本も見る、意見も聽く、問題に付ては飽く迄研究に、研究を重ねて、深謀遠慮の上に最後の斷定を下す。これが實行に當つては實に大膽に、その蓄蓄を傾けて所論を持して讓らない。之が君の政界に於ける橫紙破りであり、鬪爭的唯一の存在であると言はるゝ所以である。研究を重ねて行くから、豊富な意見を堂々と述べるが、一度衆議として決定した以上は、實に從順にその統制に服する。此の點はどうしても凡人の企及し得ない、磊落な特質である。よく見る樣な自說に拘泥して、何時迄もウムジを枉げる樣なケチ臭い片鱗は微塵もない。

× × ×

君が持つ大きな鬪爭的形態を率ひて、政界に動く勢威は常に旱天の入道雲を思はしめる。その將來に極めて大きな期待を抱かせるが、その出處行藏は坦々砥の如しである。大臣病患者でもない、と言つて總裁的慾望も見受けられぬ。では政治を舞臺として金儲けをするのかと言へば、その點では採算を割つた支拂勘定ばかりを續けてゐる。只明に讀めるものは一刹もヂッとしてゐられない仕事への旺盛なる氣配である。事業は一切を擧げて、智謀の人鮎川に委せ切つて、政治に浚頭するかの君は、矢張り多年實業界で培はれた、事業熱が脈々としてその胸中に漲つてゐる樣だ。

第二次若槻內閣の時、君は內外の大勢を案じて、多年の宿論である協力內閣出現の必要を痛感し、民政黨の富田幸次郎と紳士協定を結んで、その實現に奔走した。間もなく若槻內

閣が倒壞して、大命が犬養毅に降下するや、君は直ちに犬養を訪問して、協力內閣組織の必要を力說したが、犬養は單獨內閣組織の素志を翻さず、却つて君の入閣を慫慂した。前約を食むとして憤激した君は、席を蹴つて入閣を拒否し、翌朝直ちに幹事長の職も辭した。反對黨の富田に對する義理を重んじ、入閣を拒否する所など、大臣病患者には一寸眞似の出來ない水際立つた藝道である。富田もその責を負ふて、安達、中野等と共に民政黨を脫黨した。爾來富田とは肝膽相照す仲となり、その後も協力運動を棄てず、進んで政黨聯携の直接運動に迄進むに至つた。

× × ×

自己の意見を樹て、一定の軌道を設けて、驀進する場合、君の眼中には利害も、權勢もない。唯目的に向つて邁進する直情徑行の樂しみがあるのみの樣である。君の眞價は權勢に迷ひ、利害に溺るゝ俗流政治家の水準を超越し、地位や黃金を白眼視して、ひたむきに仕事を樂しむと言ふ一點にある。

君には實に得難き魅力がある「久原には財產はない、が有用の人物を棄てるには忍びない」と言つて、俠漢の骨を拾つてやる。君の傘下には今一旦緩急あらば、身を挺して物の役に立つと言ふ、生き〳〵した人物が盟を結んでゐる。それは政界と、財界とを通じて鬱結した一大勢力を形造つてゐる。

風雲を望んで起つ君は、この隱然たる勢力をバックに、剛復慧敏で、然も强力なる鬪爭心を兼ね備へて、政局を達觀し縱橫の機略を持つてゐる。近代に得難き逸材であり、前途の計り知れぬ存在である。

黑船の襲來は武門專制の夢を破つて、幾百の殉血に彩られた時代の潮は澎湃として、王政復古の大業を翼贊した。

この檜舞臺に絢爛の功名を擧げた、幾多の俊傑を先輩に生を享けた君は今、伊藤、山縣の抱負と、西鄕の人望を共に負ふて、明治新政を玉成すべき昭和の大業に、天賦の資性と、畢生の勇氣を皷して邁進しつゝある。

君の淸濁併せ呑む豪膽と、德望を以て昭和維新の難關を突破することも、さのみ難事ではあるまい。大人自重して天稟の資性を萬分に發揮せんことを。

× × ×

大谷光瑞君

略歷

前本願寺派管長

「齋藤、岡田と、これで擧國一致內閣の正體も分つたし、その無能振りも試驗濟みとなつた。それかと言つて、今の政黨を見渡しても日本を背負つて立てる人物は見當らない。全く死人同樣である、官僚藤井等は、「高橋が尻押しをするからやつて見ろと言はれても、持ち切れなく弊れたではないか。偉人が出なければ治まりがつかぬ」と豪語して、帝國の生命線を爲す、南洋、支那、滿蒙を始め海外に幾多の事業を經營し、產業開發の指針となつて悲風、慘雨、國家の爲めに盡瘁する傑僧大谷光瑞君は蓋し法門に始めて見る豪雄である。

君が國策殊に海外政策に對する高邁なる抱負と識見とは正に當代隨一と稱するも過褒でない。君の主張は單なる机上の空論や、素通りの素見でなく、世界を家として三十年、人智の及ぶ限りを盡して土と闘ひ、天を仰いで獲たる貴重の體驗が物語る至上の敎訓である。卑近な一例を擧ぐれば、君が日露戰爭以後三十年、滿洲に腰を据へて農業の開發に努力した結論が「滿洲の農業は駄目だ」と言ふのに、內地から何も知らぬ學者を呼んで、お茶を濁してゐる。滿洲の農業は有望であると言ふ樣な出鱈目を言はせ、太鼓を叩かせて、農業移民を入れるが、入れた移民は悉く失敗の連續である。學者は嘘をつけばその場はすむか知らぬが、移民は土が相手の農業である、學者のやうな胡麻化しは土の方で受けつけないのだ。君は叱咤して言ふ。「滿洲を知らぬ邦人は、先づその尨大な面積を見て驚き、我帝國とは比較にならん程の沃野だと勘違ひして、滿洲の農業は前途有望だと速斷するのが癖だ、そしてこの杜撰極まる調査と目擊とによつて、輕々しく滿洲に投資する人間も少くないやうだが、その結果は果樹のやうな多年性

のものを除くと概ね失敗である。併し私がいくら望みなしと叫んでも大部分の人はまだ私の言ふことを信じないで、甚しいのになると、お前のいふことは國策に背くと言つて非難する人さへある。

私の言ふことが、國策に背くか背かぬか、それは私の知る限りでないが、私の知つてゐる唯一のことは、我帝國が如何に强大であつても、地球の太陽に對する角度を改める事は出來ないと言ふことだ。如何に國策を以てしても、擧國一致を以てしても、地球の太陽に對する角度を改めることの不可能は、斷言して憚らない。

假りに私が百歲以上生きて、舌を吐き、手を揮ひ、口に筆に、滿洲の農業は有望だと叫んでも、この角度の改まらない限り、私の言ふ通りにはならないのだ。

農作物に對する二つの害、即ち寒氣と、乾燥とは、この角度から當然に起ることで、人力ではどうすることも出來ない。苟しくも地球の太陽に對する角度を今の儘にして、滿洲から寒乾の兩害を除かうとしたら、ベンゴール灣から北平洋に通ずる地面をまつすぐに削るより外に方法がない。

この事の困難は、角度を變へることの困難と大差ないのである。寒害も、乾害も皆アジア大陸の中心に海のない點から來てゐるのだ。假りにシベリアが陷沒して海となり、ゴビとタクマカレの兩沙漠が地中海となつたら、恐らく滿洲の氣候は北米合衆國と同じやうになるだらう。このことが皆行はれないとしたら、滿洲の農業は有望でないと言ふ、私の言葉が不幸にして至當であるといはねばならぬ」と慨嘆して、細密の調査を擧げて牧畜と農產加工を主とする、農業の副業を奬勵してゐる。又水利

を興すの念願を力說してゐる。

元來出先官憲の現地報告でも、政府の視察委員でも、必要不可缺の問題を、政策的に取扱ふ弊害のあることは、國家の爲め實に悲しまざるを得ない。

× × ×

今日に於ける我植民政策は、膨脹日本の國策を解決する唯一の生命線であると言はねばならぬ。經濟日本の進路は、日滿兩國の提携から密接なる關聯を保ちつゝ、北支から印度、南洋、濠洲の諸邦に及び進んで世界的進出が企圖せられねばならぬ。君は地球上に存する天賦の資源を、荒蕪に附することが全人類の不幸であるとして、植民地再分割論を主張し富源の開拓を强調する。然してその豊富なる識見は、農業政策の徹底から、食糧人口の諸問題に及び、重要國策の汎ゆる部門を總ての角度から檢討して躍進日本の最高峰に活躍する。

「國策を出せといはれゝば、いつでもその持ち合せはある。只それを實行する程度の强力な政府がありさへしたら、よいが、屁つぴり腰の後押しばかりは御免蒙る」と言ふ豪腹の君が全幅の經綸を提げて、廟堂に怪腕を揮ふ日を吾人は翹望する。「大谷は商人ではない、目的とする所は私にあらずして國にあるのだ、苟も國家を思ふ至情に至つては、何人に對してもヒケはとらぬ」と、火の樣な意志を明示する。

君が京都西本願寺の嫡流に生を享けて、學習院卒業後、歐洲に留學して研鑽を積み、歸朝後は六甲山に寓居して、深く內外の經典を攻究し、多數の子弟を薫陶敎化して、宗務の進展に努め、其間屢々印度、西藏を探險し斯學の蘊奥を極めて學界に寄與した功績は實に偉大で、明治三十六年明如上人の示寂後本願寺派管長として一山の信望を擅にした。

併し君の透徹した宗敎觀は、その燃ゆる樣な報國の赤誠と相俟つて、襖の風もいとふ長袖、勤行の殿堂から、朔風面を打つ荒波に乘り出したのである。爾來三十年、櫛風沐雨に枕して、現實に生きる、人と國家に送る生命の源泉を深遠の佛敎哲理に求めて、集積發表せられるのが不朽の經典を爲す國策の全貌である。君が不撓不屈の研鑽になる力强い政策が行はるゝ時、君を生佛として、讃仰隨喜する全國八百萬の信徒と一萬の末寺は翕然として君の前後を守護するであらう。

天正年間に於ける本願寺の由緒ある歷史は語る。宗敎は汎ゆる國策の根柢をなさねばならぬと。全山風を臨んで起つの時である。

深井英五君

略歷

日本銀行總裁

二十二億を計上する未曾有の豫算から、約半額を要求する尨大な軍事費は、非常時國防の充實を環つて、逼迫せる國內產業の確立と共に、非常時財政の深刻を物語つてゐる。「國防は國富よりも重大なり」と、アダム・スミスは喝破してゐるが、兵農兩全は國家を守る唯一の安全弊である。

今日に於ける世界經濟は、歐洲大戰後の恐慌の波濤に今尙揉まれつゝあると言はねばならぬ。白人死鬪のもがきも、畢竟從來の堡壘强化の域を脫して、新天地に躍進する經濟的進路の相剋に過ぎない。「國權の向ふ所商權之に從ふ」とは昔も今も同樣である。我國に於ては近時滿洲事件の勃發に關係する、軍備充實の必要と、不況打開の爲めの經費によつて、不可避的に財政インフレを招來し、金融インフレとも化して經濟界に一陽來復の機運を齎したかの感があるが、斯の如き敍行的現象によつて、膨脹日本の求むべき進路と、經濟力の充實を企圖することは出來ぬ。

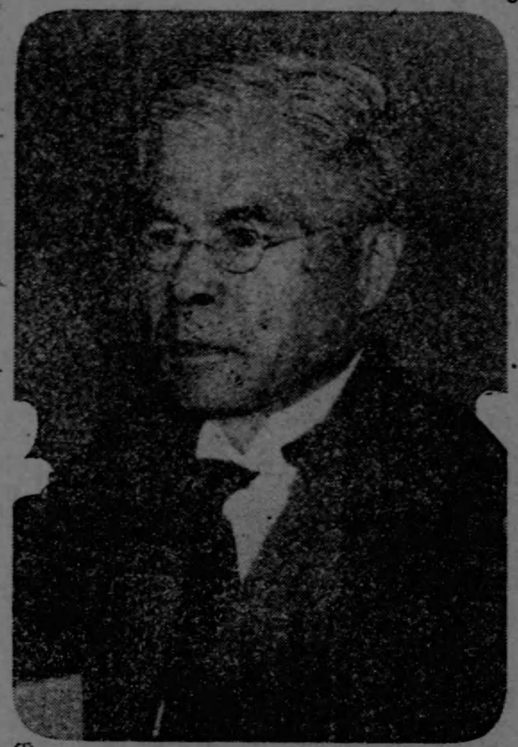
現在の貧弱な經濟力を以て、東洋の英國を氣取るには、餘りにも富の程度が、低過ぎる。老藏相がそれを氣にして、資本の蓄積や生產力の增大をやかましく言ふのも無理はない。今日の處では何と言つても、空威張りの範圍を脫し得ないもので、經濟力の充實は今日に於ける緊切な問題である。この問題を切離して軍備の充實を企圖することも結局に於て不可能であり、若し經濟力を無視して軍備の充實を圖れば、惡性インフレを招來して國民經濟を破壞し、戰はずして負ける結果となる。

玆に於て强調せなければならぬ經濟方策の基調は、一國の存榮上基本を爲す、諸產業の確立を圖らねばならぬ。よし今

後通商自由の再現を豫想するとしても、國内に於ける諸産業の確立は、斷じて等閑に附することを許さない。近時所謂非常時局の波に乘つて進出の企圖せられつゝある軍需産業の如きも、一時の泡沫的殷盛でなしに、確固たる基礎の上に助長の方策が講ぜられねばならぬ。

事は單に狹義の國防的見地に止まらず、廣く國民的給養の見地に於て考慮せられねばならぬ。緊迫せる今日の問題は中小商工業の問題であり、農村問題である。

更に之等産業の進展的過程の充實から、大乘的見地に立脚して、世界人類の平和と正義との名に於て新しき通商自由の將來を各國に要請し、その第一基調として世界資源の合理化を高唱せざるを得ない。次に特に力說したいのは日本の地理的地位の再檢討である。今更言ふ迄もないが、日本の亞細亞に於ける地位は、世界資本主義勃興期に於ける、英國の地位と略々同一である。否更に日本が印度、南洋、濠洲等の諸邦と、その最近の位置に於て存在することを考へたならば英國の地理的地位に優ること大なるものと言はなければならぬ。併して之等の諸邦が經濟發展の段階に於て、遙に我國より後進の地位にあることは、我國の前途に一大光明を與ふるものである。即ち日本經濟は此等諸領域との密接なる聯繫の下にその進展が企圖せられねばならぬ。既に日滿兩國は不可分關係に於て、相互依存の經濟方策が著々として講ぜられつゝある。



吾人はその政治的進出を云爲するものではないが、經濟的には是非とも北支より中支、南支に及び更にヒリツピン、蘭印、シヤム、印度等に延びて、日本經濟の圏域が、確固たる、地歩を占むべきことに、萬全の方策が講ぜられねばならぬ。資本主義の再强化時代とも稱すべき今日の財政を、世界

に於ける日本の經濟的見地から、的確な見透しをつけて斷々乎として之を行ふ力量の人を要望する。財界の惑星、松方幸次郎の存在もいゝ、堀切、大口の百戰練磨の名將を迎ふるもいゝ、結城の守成にも多分の期待がかけられる。

併し今日の高橋財政を委して、非常時の潮を乘り切るものは先づ第一に、深井英五君に指を屈したい。土方總裁の後を襲つて十三代目日銀の總裁である君は、頭腦明晰なることは高橋藏相の折紙つきで、その金融政策は日本第一の定評があり、財界切つての學者としてその權勢を擅にしてゐる。

君が無愛想で、理窟屋で、冷くて、融通が利かぬと言ふので、株式方面から敬遠されてゐる樣だが、それは殊更に君をしふる皮相の見解である。成る程君は、財界人の氣褄を取る程の追蹤も、巨頭の門に叩頭する阿諛も斷じてしない。その代り天下誰一人掣肘を受くるものゝないことは、普通人の企及し得ざる、明朗の天地である。融通性に乏しい樣な顏付の君も實は、夏目漱石の「黑い目茶色の目」に出て來るモデルの樣な情操豐な長者である。君は高崎松平藩の門閥に生を享けて、單身笈を東都に負ひて、始め民友社に入り、二十五年國民新聞に轉じて、侃諤の筆を載せ、常に議會記者として奮鬪し、日清戰爭の勃發するや從軍記者として、戰地を馳驅し悽絶、迅速の文章を發して、文名を謳はれたものである。二十九年文豪德富蘇峰に從つて、親しく歐米各國を巡歷した。止まること七年、政治、經濟に亘る汎ゆる部門を檢討し、溢るゝ新知識を包んで、三十五年に歸朝した。

今日君が世界的經濟通として、覇を唱ふるも此の間に培養せられた學識と、見聞に負ふ所多い。歸朝後卓越したその才幹を松方正義に知らるゝに及んで、三十歳で山縣内閣の松方藏相の祕書官に拔擢せられて鼓に操觚界の足を洗つた。一年の後松方侯より日銀總裁山本達雄男に推薦せられて、三十四年の秋から年俸千二百圓を以て日銀の人となつた。

かくて調査役、祕書官、國債局長、營業局長、理事と累進し、その間ヴエルサイユの平和會議、ワシントンの軍縮會議ジエノアの國際經濟會議に、帝國全權隨員として出席し、その蘊蓄を傾けて帝國の爲めに萬丈の氣を吐いてゐる。君が國際經濟通としての日本一の名稱を辱しめず、不偏不黨、帝國將來の財政を達觀し、世界的進出の氣運を醸成して、國内産業の完成に資すると共に、國家の財政を泰山の安きに置く日のあることを君の靈腕に期待する。

川崎卓吉君

民政黨の將來を卜するものは一に繫つて川崎卓吉君の存在にある。君の最近に於ける政治的聲望は黨内に匹敵するものなく、町田に繼ぐ總裁として萬人の異論のない所である。

君は、時代の政治意識を把握する能力と、之を實現する戰鬪力とを兼備する點に於て、中央政治家中の雄なるものである。

然も官僚出身の君が、幾ばくもなく政黨生活に於て、完全に政黨の要諦を心得、世故と人情の表裏は、政黨生え抜きの者よりも遙に民衆政治家の型にはまり、垢ぬけした清新さを思はしめる。

短身横太りのガッシリした體に廣い額、怜悧に燃ゆる眼光引締つた口を持つ君は、全身から溢れ出さうな、智謀が漲つてゐるのを見受ける。

略歴

- 勅選貴族院議員
- 前内務政務次官
- 前内閣書記官長

帝大を優秀の成績で卒業した君は、内務省を振り出しに、知事稼業を勤め、加藤高明子の本據、名古屋に迎へられて市長となつた。その後加藤内閣の警保局長、濱口内閣の法制局長官に歴任し、ロンドン會議の時、若槻全權に望まれてロンドンに顧問として同伴した。歸朝後、第二次若槻内閣の書記翰長を勤めた。齋藤内閣の時、内閣側から民政黨の代表として熱望せられたが、若槻總裁のもだし難い頼みもあり、君自身も總裁の側近にあつてよき相談相手となる考へから、永井に大臣の椅子を讓つた。

政黨混亂期に際し、若槻が民政黨總裁として、一糸亂れぬ統制の妙腕を發揮してゐる蔭に、君が己を殺して若槻に致した努力は、見逃すことの出來ない功績である。「志士仁人は己を殺して、人の爲めに爲す」と言ひ、「人は己を知る者の爲めに死す」と言ふ。澎湃として社會の各層を掩ふ、功利主義的思想の中に、況や權勢の亡者の如く思惟せらるゝ政界の眞ツ只中に在つて、屹然己を棄て、榮位を棄てゝ、平然己を知る人の爲めに行を共にするが如きは、君の樣な情理兼備の君子によつて始めてその範が示されるのである。

現在町田總裁の副總裁格として一切の黨務を執掌し、兵站部に大きな力となつてゐる。選擧の苦勞は一度も嘗めず、純然たる官僚育ちであるに不拘、官僚らしい香ひの微しもしない解脱さを持ち、性格はその風貌の如く重厚、頭腦は頗る明敏、民政黨に不可缺の存在である。政治家としては珍らしい讀書家で、多忙な日常にも不拘、常に暇を見て内外の書籍に目を通すことを忘れない。

政治家の通弊として、誰しも實名的氣分と言ふか、自己宣傳の氣分と言ふか、より以上に自分の存在を世間に吹聽したがる癖があるが、君に於てはそれが微塵もなく、必要な時に於てすら默して語るまいとする。苟も自己宣傳に類することは斷じてしない。之が却つて、君の重厚さを倍加して居る樣に感ぜられて、奥床しい。若槻内閣の書記翰長時代、貴族院方面での難問題には、必ず君が出掛けて諒解運動を試みたが平素無口の君が、切に熱情をこめて、情理を盡す敬虔、眞摯の態度には逢ふ者が必ず敬服した。

若槻内閣が君の爲めに危機を免れ得たことは幾度あるか知れない。黨内に於ける多くの俊輩を拔いて君に、不動の嘱望が懸けられてゐるのも、情理兼ね備へたる重厚明敏の性格によるものと見ねばならぬ。

誰でも一見してピタリと來る樣に斗の如き膽と、あの智謀の深大を象徴する相貌は、君の政治的將來の如何に輝かしきもので、あるかを物語るもので、殊に君の在る所、和氣漲り百年の知己を玆に見るの感がある。現在貴族院にある君が近き將來、衆議院に打つて出る準備が藏されてゐると言ふから、議席に君の温容を見出すのも遠くはあるまい。

池下常五郎君

略歷

田身　愛媛縣
全國共同乾繭倉庫聯合會理事
全國養蠶業組合聯合會評議員
產業組合中央會產繭處理統制中央委員

非常時日本の使命は今や軍縮會議の脱退によつて、より愈固なる國民的總動員を敢行して、經濟日本の確立を圖らねばならぬ。

玆に於て大聲叱呼、强調せなければならぬのは、國內產業の振興と、緊迫せる農蠶問題の解決である。併して全國一千二百萬養蠶農民の死活を決するものは、蠶糸政策の確立に俟たねばならぬ。五億萬圓の巨額に達する生糸輸出が常に我國貿易の最高峰を占めて、經濟界の樞軸を握り、國富の源泉を爲すことは玆に言ふ迄もない。即ち蠶糸政策を除外して、帝國の經濟的存立は斷じて期せられぬ。

併して今この死線を彷徨する非常時農村を背負つて、蠶糸業對策に萬丈の氣焰を擧ぐるものに、池下常五郎君がある。愛媛縣の產、慶應義塾に學び、京都の高等蠶糸學校から斯界へ人生の駒を振り出した君が、爾來三十年、養蠶、製糸、蠶糸業の各部門に亘り、一貫した磐石の信念の上に、何人も企及し得ない研鑽の努力と、尊い體驗を嘗めて築き上げたのが今日、全日本の蠶糸界を背負て起つ第一人者としての君の國家的存在である。

近年君がその卓越した識見と蘊蓄を傾けて、蠶糸業更生の一路に邁進し、堂々の論陣を張つて活躍する有樣は、製糸界の今井五介、養蠶界の加藤知正と共に斯界第一の權威者たる稱呼に恥ぢない。過ぐる第六十七議會に於て、君が當局と共にデツチ上げた、政府案を支持し、山崎農相を鞭撻して、產繭處理統制法案の通過の爲めに、闘つた目覺しい活動振りは一躍盛名を天下に馳せて、全國二百五十萬の養蠶家をして隨喜渴仰せしめたものである。當時明治神宮外苑の青年館や、青山會館で全國の代表六千人を前にして、斯界の權威月田農學博士や、有馬頼寧伯と轡を並べ、農村救護の大雄辯をものして、滿場を呻らせたことは餘りにも有名である。その溫厚の口を衝いて出る一言一句は、實に洗練された力量と、高邁

なる經濟的抱負の迸りで、大衆を包む偉大な迫力である。

君は今、全幅の經綸を提げて、蠶糸業國營を力說する。

「蠶糸業の將來はどうしても養蠶を除くの外、國營に移さなければならぬ。第一製糸は原料繭の改善をすれば、現在の釜數の三分の一ですむ。假りに國內で三十萬釜あれば一釜千圓替へで買上れば三億萬圓である。其三分の二を賣拂ひその金を以て三分の一の工場の完成を期し、各種の生糸を生產する專門工場を設置する。養蠶家に向つては、政府より蠶種を配付して、組合每に技術員一名を派して、養蠶指導に當らしめ、規格統一された優良繭を生產し、之を繭檢定所で檢査して成績によつて政府が一定の料金を支拂ひ、生糸販賣の利益は後日養蠶家に分配する樣にすれば、養蠶家は今日の如き蠶種を得ることと、繭を販賣することに何等の苦心を要せず、專心養蠶に從事し收入が確立して、玆に始めて千二百萬養蠶農民の生活が保證される譯である。

それによれば現在の蠶糸業の利益に比して、糸質の向上による利益と、糸量の增加による利益と生產費の遞減等を併せて優に三割以上の利益を生むことが出來る。その爲めに每年一億五千萬圓以上の利益を今日以上勞することなく得る、之が蠶糸業の確立的基礎である」と傾倒すべきこの論據が行はるゝ時、其處に始めて農村は百日の旱天に慈雨を仰いで微笑ましい黎明の陽光に接するのである。一面君は研究的資材を有する實際家である。

豐富な發明的天才は原料繭改良に關する發明等で五十餘と言ふ專賣特許や新案特許を持つて、製品は長くも宮城紅葉山御養蠶所へ御買上げの光榮に浴してゐる。蠶糸報國の燃ゆる樣な信念を以て國家に貢獻する君の功績は、帝國發明協會の二回に亘る表彰となり、發明博覽會に於ける有功賞の授與となつて、永遠に君の英名を記念する。立志傳中の偉材溫情の君が、危局に立てる全國農村の興望を擔つて斯界を縱斷する氣魄は確に非常時日本を背負ふ巨星たるの資格を持つ。

安藤正純君

略歴

東京府第三區選出衆議院議員
前文部政務次官
文政審議會委員

嵐の様な迫害の中に毅然として、立正安國論を叫びつづけた不世出の傑僧、日蓮の意氣を吾人は今、政界の君子安藤正純君に見ることが出來る。

昭和の初頭は將に元寇來を彷彿せしむる、外交の危機であり、爛れ切つた政治家への一大受難時代である。とりわけ昭和七年以後、政治家に對する輕蔑の眼ざしと言動とは社會の各層を通じて、汎ゆる場面から盛り上げられて來た。「日本の國家を毒する者」と言ふ冒頭詞で、政治家に對する呪詛の聲が放たれた。

この憂ふべき錯覺と怨嗟に伴ふ、政黨の潰滅を思はしめる四面楚歌の裡にあつて、敢然身を挺して政黨の爲めに萬丈の氣を吐き、純眞なる政黨人の面目を、躍如たらしめた人に安藤正純君がある。過ぐる第六十四議會の壇上に於て、君が現下の政情と、軍部を捉へて、從來萬人の齊しく言はんとして言ひ得ざりし沈默の重大問題に對し、大膽な批判のメスを揮ひ、堂々の論陣を張つて、政府と、軍部とを戰慄せしめた物凄い武者振は、未だに吾人の記憶から去らない。

君は續いて第六十五議會の劈頭、政府に向つて三大質問の大爆彈を投げつけ、綱紀の紊亂、官僚政治の頽廢、軍部の獨裁思想、を忌憚なく痛擊し總理、內相、陸相の顏色を靑からしめ、數次共の答辯に窮さしめた膽力と、雄辯とは、實に六十五議會の白眉であつた。

更に君は同議會に於て前演說と共に政友會を代表して「社會不安に對する緊急質問」を爲し、滔々として、ファッショ的思想の跋扈に伴ふ國民自由の拘束を難じ、一々實例を引證して、完膚なく言論の壓迫を痛擊した。國家民人の爲めには

何物をも恐れざる不動の構へは議場を壓して、思はず讃嘆の聲を放たしめた。

これは君の雄辯や、學問の力もあらうが、それよりも大死一番、國家を思ふ赤誠の迸りが、骨を刻む自己批判ののち、悟り得た大乘の境地に、世界を衝動せしむる不拔の信念が脈々として君の五尺の體の中に包藏せらるゝの力である。

果せる哉、天下の輿論は、翕然として君を迎へ、政界は人なしとさげすまれた、長い陰鬱のトバリを脫して、ほゝ笑ましい陽光に接した。

かくて打ちのめされた、政治家の蘇生と、政黨の復活に淸新潑剌の光を投げかけたのである。

君が今、政友會の最高幹部とし、中堅闘士として第一線に華々しく活躍して、名實共に同黨を牛耳つてゐることは、餘りにも有名な事實であるが、又鈴木總裁の帷幄から寸時も離すことの出來ない、重要な存在である。」

君が議會で獅子吼する堂々の論戰を見る時に、吾人は如何にも痛快な政黨人を聯想するのだが、その反面に、君がヂャーナリストとして、大朝日を主宰した敏腕と、宗教家出身として溫い佛陀の慈悲に、幾多の教育事業並に、教化事業を經營して教界に壹す功績と、之に培はれた不動の政治的信念を見逸すことが出來ない。

君がヂャーナリストとして得意の盛名を馳せたのは、東京朝日新聞局長と取締役を兼務して、大阪に常住する村山社長の代理で、大朝日の全機能を指導、統轄して所謂、東朝に於ける君の黃金時代——安藤時代——を現出した當時である。

侃諤の筆陣は已に世に定評がある。親しく歐米の事物にも通じてゐる。八面玲瓏の手腕と稱して敢て過褒でない。

白髮痩身の君が、ひた〳〵と迫る熱度に、在官當時から教育、宗教方面に捧ぐる功績は枚擧するに暇がない。」

永田秀次郎君

略歴

勅選貴族院議員
前東京市長
拓殖大學校長

近代的政治家の典型として政界に君臨した、故後藤の懐刀として、東京市政に縦横の腕を揮つた、情操豊な君子に永田秀次郎君がある。元來政治家は、東洋流の豪傑を以て自ら任じ、敢て風流を解し樣としない。寧ろ利權の爭奪に浮き身をやつして、高潔な趣味の殿堂に、人間味を味はふと言ふ樣なゆとりを持ち合せない。自他共に大御所を以て任じてゐる樣な人でも、平氣で誤つた文字を揮毫して得々としてゐるのだから、他は推して知るべしである。此點では偏狹と迄言はれた犬養木堂は實に驚くべき多趣味の人で、而も殿樣藝でなく堂々一家の域に這入つてゐたのであるから感心させられる。「洒落を解せぬは下等だ」と博士和田垣謙三の樣に定めて終ふのも勝手だが、人生は眞面目の反面に於いて、洒落をかみ分ける位の餘裕があつて然るべきだ。

毛の生えた樣な利害や、權勢の爲めに目の色を變へて狂奔し、ジオータやユーモアを解しぬ得人間を、決して高等と謂ふ譯には行かぬ。「憂勤は是れ美德なり、太だ苦しめば則ち性に適ひ、情を怡ばしむるなし」と古人も言つてゐる。人間に餘裕がないと、神經衰弱になり、社會に餘裕がないと禍亂を萠す。之は古今東西を通じて悖らぬ千古の眞理である。今日に於ける日本の病患は各層を通じて、餘裕のない點である。之に對して或は斯う言ふ人もあらう。「非常時にそんなことが言つてゐられるか」と。成程內外の情勢は極めて緊迫した、古今未曾有の非常時である。併し非常時であればこそ綽々の餘裕を以て之に當るのが、大國民の襟度でなくてはならぬ。

神經衰弱的な狂躁を以て非常時を乘り切るのは、落陽を返すよりも猶困難である。この餘裕のない、ひからびた狀態を

如實に示してゐるのが今の政界人である。鹿を逐ふ獵師、山を見ずの譬へに洩れず、夢うつゝにも權勢と黃金を求めて狂奔し、遂に牢獄に陷沒する政治家の如何に多きことか。定まりかゝつた大臣の椅子が今一足の所で辷つて、腦溢血になつた政治家もある。之が豪傑を以て自ら任じてゐる錚々の所であるから噴飯に値する。

斯うした淺間しい慾圍氣の中で泰山が崩れ樣とも、びくともしない餘裕の人を求むれば、先づ第一に君を推さねばならぬ。

齋藤內閣の時、文部大臣に決定してゐて、內閣の都合でオヂヤンになつた時等も「鰻の香丈けだつたよ」と大口を開けて笑ふ丈けのゆとりを持つ君である。

君はシャレも飛ばせば、冗談も言ふ、和歌、俳諧にも有名な青嵐の號があれば、太公望にも腕を持つ。正に政界切つてのユーモリストであり、貴族院の水戸黃門である。俳句に綿入りと謂ふ言葉があるが、これも君の創始にかゝる。嘗て野田大塊の俳句やら、寢言やら解らぬ句を評して「綿入り」の俳句だと與太つたのが流行の始まりである。

名は體を現すが、體も亦名に反かぬ。六尺豊な挺々たる長身は、ユーモア味たつぷりである。鼻の眞ん中で生え揃はぬ八字髭、鯨の樣な大口、眼鏡の奥でヘッドライトの樣に光る目玉、悠長な口の利き方、之れ丈けを想像するだけでも、長者の親しさを覺える。

最初の東京市長時代、大震災橫死者の氏名を鎭錨に書き連ね、之を硝子箱に納めて高野山の地下に埋め、一萬年の後迄も記念に殘して置かうと言ふ計畫を樹てた。君の情操がよく偲ばれる。二度目の市長の時、白上祐吉事件の責を負ふて辭したが、君丈けに、世間も君の一身について寸毫も疑ふとしない。君の陰德の然らしむる所である。數年前貴族院の壇上で、樞密院問題につき、愛國の熱情を吐露して滿場を感激せしめた。君は風光明媚な淡路島の長者廿歳で已に鄕里の中學校長や郡長を勤めた偉才である。

秋田清君

略歴

徳島縣選出衆議院議員
前逓信、内務政務次官
前衆議院議長

衆議院議長の榮位と、隱然たる政友部内の地歩をかなぐり棄てゝ、新政黨組織の昭和會にも趨らず、獨り政界の浪人とし、政界切つての策士として、その一擧手、一投足に微妙の政局を牛耳るものに秋田清君がある。

君は四國徳島の産、生來神童と謳はるゝ明敏で、思慮深く遠大の希望を愛に載せて東都に出た君は、二十歳で判檢事試驗に合格した。その後は三十歳で代議士となり、四十で大臣になる抱負を持つて孜々として修養し、努力したと言ふ。なるべくして大臣の椅子は未だ實現しないが、堂々たる政界の勢力と、衆議院議長の榮冠は既に贏ち獲た。

君の特長は、細心の注意と、大膽な行動と、そして素晴らしい實行力とを兼ね備へてゐることである。この特長は政界切つての策士として完全に表現されてゐる。

田中義一が政友會の總裁の時、犬養木堂の幕下として革新倶樂部にあつた君は、犬猿も啻ならぬ政友會と、革新倶樂部を合併する案を樹てたが、君の周密なる思慮と、細心の注意とは完全に世間の眼を奪ひ、そして大膽なる行動はよくこの極めて困難な仕事を爲し遂げ、之が成立つた時は隼の樣な新聞記者連中も唖然として言ふ所を知らなかつた。之には勿論犬養の懐刀古島一雄が全責任を負つて、悲痛な公表をしたのであるが、帷幄の裡に策を環らし、之を遂行したのは君の力あつて始めて爲し了ふせたのである。政友會入黨後は實に隆々たる勢ひを以て勢力を張り、田中内閣では事實上の書記輪長として、思ふ存分の怪腕を揮つたものである。

大衆に接し、大衆に關聯して仕事をする政治家には特に風貌や、態度が影響する所尠くない。風貌は生來のもので、決

してその人の持つ内容を直ちに表現するものではないが、その人の内容を充分に理解し得ない大衆は、その風貌や、態度から來る直觀に重點を置き、強いて獨斷的の解釋をつけたがる。あの人間は偉さうだとか、あの面魂は頼母しさうだとか社會的に充分認識された人間にはないことであるが、さうでない者にとつては偶々斯樣なクダラぬ事が相當大きな影響を及ぼすことがある。よく「あの顔が第一氣に食はん」なんて喧嘩をしてゐる者を見受けるが、之には全く笑へないナンセンスを含んでゐるが、顔負けすること夥しい。

普選案通過の前後雷名を天下に馳せた、田淵仙人は何時でも醉つた樣な顔をしてゐた。彼は事實酒屋の伜で酒燒けはしてゐたかも知れぬが、何時でも酒は呑まず、強いて一盃も乾せば金時の火事見舞の樣な眞赤な顔になつたものだ。それを知らない大衆は田淵の御面の直觀から「田淵の醉つぱらい演説」などととう〳〵彼を酒呑みにして終つた。演説の時、ガブ〳〵水を呑む田淵の癖が、醉つぱらひの呑むひや水だとして裏書された。之等は笑話に等しい例であるが、政治家の風貌や態度から來る感じが、決して笑話では濟まされぬ影響を與へてゐることが尠くない、

その風貌で損をしてゐる最も著しいのは、鈴木喜三郎と君であらう、若槻も決して良い方ではないが、彼には骨稽味があつて、反感が持てぬ、だが鈴木や君には、如何にも大衆の近寄り難い固さがあり親しみが持てない。

君の風貌は一見、傲岸不遜、どう最眉目に見ても親しみが持てないが人に對する場合は實に慇懃叮重な所が多い。信ずる者に對しては、酬ゆる事厚く知人や後輩で彼の爲めに逆境を救はれたものも尠くない、人は君の風貌から來る獨斷の、推理を棄てゝ、短刀直入君の豪腹な意氣にぶつからねばならぬ。端睨すべからざる君の實行力が將來如何なる境地を開拓するか、政界に於ける唯一の惑星であり、實に有能の一實材である。」

中島知久平君

略歴

群馬縣選出衆議院議員
前商工政務次官

「女郎や藝者ぢやあるまいし、さう簡單に政府とくつつける かい」と大見榮を切つて、齋藤内閣に絶縁狀をぶつつけ樣とした、鈴木總裁も、いざ鎌倉と言ふ段になると、いやが應でも兵站部總裁である中島君の意見に從はねばならぬ。

眞先に來邸を求めて君の意見を叩くと、君は政黨に對する周圍の事情を懇々と說いて、今日決戰の時機に非ざることを力說した。言はれて見れば自分の面目等は考へても居られない。鈴木の腹は、情理を盡す中島君の一言に決定して、黨内の危機を脫し得たのである。

君が大政友會の行動を左右する地位を築き上げて、大勢力を揮ひ得ることは、資本主義爛熟期の原則として金に負ふ所も確にあらう。併し「中島の光りは金の光りだ」と嫉視するのは、群盲像を評するの譬へに洩れなからう。勿論公平に見て今日喧傳せられる君の政界に於ける押しも押されもせぬ地歩は、政治的資力を切り離して論ずることは出來ない。

海軍大學に學び、海軍機關大尉としての慧眼の君が疾く我民間飛行界の將來に著目し、幾多の波瀾と、荊棘の途を經て民間隨一と稱せられる中島飛行機會社の完成を見るに至つた迄の、飛行機王中島君の努力は到底凡人の企て及ぶ所ではない。そして今この巨大な財的背景と、洗練された識見を以て奔放自在に政界に驥足を伸べんとすることは、競爭者流の一大脅威であるに相違ない。

併し君の黨内に於ける現有勢力は、君が賣り込んだものでなければ、媚を呈して迎合したものでもない。期せずして玆に至つた君の絶對的評價であると言はなければならぬ。即ち君の俠骨に結ばれて行く磐石の評價である、君は世間の政治

家と全く本領を異にした偉材である。政界游泳の上に型づけられた、一切の陋習を排して、その出所行藏を一貫した信條と理想に託して、著々と進境を開拓して行く不言の裡に素晴らしい飛躍力を發揮しつゝある。

君は潤澤な政治資金を、自己の勢力圏の擴大强化のみに散じ樣とはしない。君は餘りにも現在に於ける政黨腐敗の原因と議會政治の凌落過程を知り盡してゐる。

眞正面からぢつとそれを見直す必要がある。政界の現狀にも議員の頭腦的缺陷にも、政策の上にも、もつと眞劍に檢討する必要を眞先に考へてゐる。

その意味から設けられたのが、日比谷、市政會館の樓上に於ける君の國政研究會である。それは君の政治家としての——然も代表的政黨陣營にある——政治觀を高らかに揭げる標識塔である。國政研究會は民間設備の、政治調査研究團體として最高峰を示せるものと評され、その組織は汎く政治、財政、經濟、軍事、外交より思想、教育、社會問題等の多數部門に分れ、斯道の權威者と新進學者數十名に、外人學者も交つて、研究部を擔任し、明日の政治を汎ゆる角度から檢討し更に一週一回廣く學者、經驗者を聘して講演會を開催すると言つた如く、君の旺盛なる研究慾は盡して餘蘊がない。

國政研究會にものせる所の集積記錄は、君にとつて門外不出の貴重なる未完成經典であつて、外に向つては重要なる對外國策となり、入りては緊迫せる國内諸問題の安全調整となり、これが聽て來るべき君の政治理論として、天下に貢獻する所のものとなる。

君の炬の如き眼光は、社會認識の非凡なる正確さを物語る。「俺は今後二十年間は勉學するんだ。」とボス政治の空疎な、インチキなる割據的支配力を排して、傘下に有能、學識の權威を糾合し、智謀の帷幄を形成して功を焦らず滿を持して、泰然たるものがある。

砂田重政君

略歴

兵庫縣選出衆議院議員
前農林政務次官

國民黨以來、神戸は實に選擧と、人物とに於て天下に誇る豪華版を示して居る。

豪放を以て一代に鳴る櫻井一久は、同士の推薦に對し鄉黨から、「辭退はせぬが、賴みはせね」と言ふ有名な電文を發して、到頭一度も選擧區に歸らずに當選した。

その歿後を繼いで起つた一寒の貧書生、野添宗三はその初陣に、元老松方の御曹子で、川崎造船所長の松方幸次郎と、晴れの一戰を交へて大勝を博し、天下を呻らせたことは餘りにも有名である。雪駄履きに端然として歩む白面痩軀の青年野添と、飛ぶ鳥も落す權勢と富を絢爛目を欺く二頭の馬車に載せて、豪然と政戰に見えたアンチ松方の對戰を今日猶、目前にあり〳〵と髣髴することが出來る。

この青年、大養木堂莫逆の親友野添の補缺に、三十四歳の素寒貧で、然も神戸市民の嵐の樣な聲援に圍まれて飛び出したのが、今日の砂田重政君である。應援者の自辯、草鞋は勿論だが、寄附金だけで選擧費用を償つて、猶ほ千圓近くの剩餘金を出し、それを君の議會に於ける活動資金にと言んだから、以て當時の人氣の一斑を知ることが出來る。嘘の樣な、こんな尊い逸話を今日の選擧肅正の守り札にして貰ひたい。

三代目守成の人、砂田君が爾來栴風沐雨の辛酸を嘗めて、今日其の間に培はれた溢るゝ智謀と、堂々の論陣を張つて政界に巨像の如く君臨するのも蓋し當然である。

大正十四年、君が犬養木堂に從つて政友會と合同するや、悶々の情を抱いて選擧區に歸り、選擧民の裁斷にその身を横へて「政治家と言ふ枝葉末節に拘泥して、一個の機械となるよりも、恩師木堂先生に殉じて、大死一番人間となることが

砂田の望みであります」と聲涙共に下る演說をして、數千の大衆を男泣きに泣かせ、轉じて萬雷の拍手に、砂田先生萬歳の雄叫びを擧げしめた、人間至上の極致は、大義明分に生きる君の性格を如實に現して餘蘊がない。又菊薫る昨秋、神戸に先輩同士の物故者追悼法要を盛大に營んで、熱に先人の後を弔ふ等は人間味豊な闘將の反面を物語つて壺きない。此の奥床しい情操の發露が先輩に對しては儀禮の限りを致し、後進に向つては最後迄手を取つて導いて行く、熱情となつて周圍を感激せしめてゐる。

君が日比谷原頭巍然として聳ゆる東洋ビルに、經濟調査會を設けて國策の檢討に沒頭し、その豊富なる識見と、縱横の秘策とを提げて政界をリードする有樣は正に驚嘆に値する。

そして君は今十數年、感激と、奉仕に培つて來た神戸の選擧區を後進の爲めに拓いて、鄉黨愛緩縣から無理押しに押し立てられる風聞もある。然し君は何時でも口癖に言ふ「自分の今日の地位は、同士と、先輩の賜である、之を忘れ、同士を售つて微塵の榮譽を獲たいとも思はぬ、況んや選擧に於ては一人でも多くの同士を選出することに碎身の努力はするが自分の爲めにその進路を妨げ、栴檀を二葉に枯らすの大愚は學びたくない。只齊身直往、同士と共に涙を呑んで國家の爲めに逆境を切り拓く一刀兩斷の勇氣を持つばかりである」と、何と言ふ雄々しさであらう。この高潔多感な心情が全國に跨るファンをして熱狂せしめる所以であり、簡潔、遒勁の雄辯となつて一世を動かすものである。膽氣斗の如き豪腹の裡に包藏せらるゝ、戰鬪力と溢るゝ才能は、纖細な溫情に培はれて君の君子的相貌に波を打つ。昭和維新は正に幾多の少壯潑剌の傑士を求めて止まない。一身を轗軻不遇の裡に棄てゝ明治の新政を翼贊したる、名劍、智謀の俊傑坂本龍馬の再來を君に思はしむる。從來に於ける君の舞臺は未だ蛟龍の池畔を彷徨ふもので、風を臨んで立つには餘りにも貧弱であつた。幾年磨いた八面六臂の健腕を揮ふのは蓋しこの非常時の潮であらう。

永井柳太郎君

當代隨一の雄辯家の折紙を付けられたものの筆頭に、永井柳太郎君を推さねばならぬ。

交通も餘りない樣な片田舍に行つて青年に「誰が日本で一番の雄辯家だ」と聞けば百人一樣永井だと言ふ。事程さように永井と雄辯とは一體を爲して離れない。

護憲運動の當時、憲政の神樣ともて囃された犬養、尾崎、島田の辯舌も實に大したものだ。現代に於ける中野正剛、牧野良三の論調も確にいゝ。

だが全國の青年層から雄辯の神樣に祭り上げられてゐるのは何と言つても永井である。その朗々たる音聲と、流暢な言ひ廻しに、所說の雄大なる構想とは、時にユーモアを交へ、熱誠を加味し、抑揚の妙を盡して、聽衆を全く自己の藥籠中のものにして終ふ。

演說を聞いてゐる人に何處がいゝと言ふと、之も亦異口同音に「何處がいゝ、此處が惡いと區別はつけられぬ、聽いてゐるうちに不知不識、陶醉境に入つて終ふ」と言ふ調子で、こうなると雄辯も完全に藝術の部類にはいる。

× × ×

地方の黨關係の青年が、三十錢位の木戸を取つて永井君を迎へ、講談張りに二、三席もまくし立てゝ貰つて、それで賞用を拂ひ、盛大な慰安會をやつてゐる連中を從來往々見受けたが、當の永井君は勿論無料奉仕で、暇さへあれば、喜んで青年の迎へるに委せてゐる。聽衆は黨を論ぜず、何時も超滿員で、梁にでも、窓にでもぶら下つてゐてもいゝと言ふのだから全く死物狂ひである。

それだけ全國に於ける、永井ファンは青年層を埋め盡して

略歷

石川縣選出衆議院議員
前拓務大臣

ゐる。政談演說で以て入場料をとり、それで何時も滿員の大入袋を出す豪勢なのは我政界に尾崎學堂と永井君の二人である。どちらが先鞭をつけたのかは審にしないが、その使途に於て、尾崎氏のはそれを自分の選擧費用の一部に充當するのに反して、永井君のは主催者の會場費等に支辨される相違がある。演說を通じて見る君の性格は、圓滿な調和性に包まれた、明朗な心境である。

骨を削り、肉を蝕むと言ふ樣な辛辣性のない代りに、何時でも絢爛豪壯な檜舞臺に、名人を偲ぶよすががある。それでゐて物事に何か理窟をつけねばすまぬ、性格の面白い反面がある。君は決して權謀、術數を帷幄の裡にめぐらす政治家ではない。博學に埋れた識見と、雄辯の人である。それだけに新刊は勿論、和漢洋の讀書に費す努力は想像に餘りある。

何時とはなしに小大隈と謳はれて、政界を闊步する君が、愛好する全國の青年層を糾合して起つ日があれば、必ずや一大の風雲を捲き起し得ることを信ずる。

× × ×

嘗ては名コンビとして、民政黨に論陣を張つた中野は智謀縱橫、才能に委せて高速度輪轉機以上に政界をハイキングして、才人才に飽るゝのおそれなしとしないが、君は泰然、政界の風雲を凝視して、靜に識見を養ひつゝ太公望の古訓を稽ひつゝある。

溫和でゐて、ズバリと切つて落す裁斷がある。嘗て君が地方の縣會議員の選擧應援に臨んだ時、三名の定員に四名の自黨候補者が亂立して、支部長がその裁定に苦しみ拔いてゐた時、前後の事情を聽取して演壇に起つた君が、快刀斷麻の辯を揮ひ、獨斷で三名を公認して、滿場の喝采を博したこと等は今もあり〳〵と其時の光景を彷彿することが出來る。

望むらくは君の偉大なる雄辯と、政治的足跡とを、永く史上に載する日の近からんことを翹望する。」

大角岑生君

略歴
軍事參議官 現海軍大臣

國防の充實は國民生活の安全辯であり、國家を泰山の安きに置く無言の威力である。岡田内閣が軍縮會議に對する一大使命を荷つて成立したが、之と同時に海軍部内の信望を一身に集めた、大將大角岑生君を再び閣内に呼び入れることの出來たのは、實に上々の首尾と言はねばならぬ。

今日の危機を前に、日本海軍の全責任を負つて起つた君はその膨大なる風貌を以て充分國民を信頼せしむるに足る。昔から「大男總身に智惠が廻り兼ね」と言ふが、君は反對に主智的で太つた身體に滿身の智惠が溢れてゐる。そして豪放磊落な豪傑的の中に案外小心翼々として事を決するに、細心の注意を拂ふことを忘れない。日常應揚にして堂々迫らぬ風格を有し、酒は斗酒尚辭せぬ豪の者である。君の穩健な、極めて理智的態度から、犬養内閣の時、部内の硬、軟(ロンドン條約に對する)兩派から推されて大臣に就任する樣になつた。東郷元帥も君の大臣には相當の期待を持つてゐられたものと見えて、君の大臣就任の挨拶に元帥邸を訪問した時、元帥は「貴下を信ずる、思ふ存分やつて呉れ」と大いに激勵されたと言ふ。君が海軍の緩衝地帶となつて、信望を一身に荷ふ功績を讃へねばならぬ。

川島義之君

略歴
軍事參議官 現陸軍大臣

「いま陸軍大臣を自分から買つて出やうと言ふ者など恐らくないだらう」とは、現陸相川島君が就任の日に訪問の記者に向つて投げかけた言葉である。誠に今日の陸軍は餘りにも尨大な餘りにも切迫した重大問題が山積してゐる。之を切り拔けるの容易でないことは誰しもが想像がつく。軍事參議官の探題を棄てゝ、血戰の現地に著くには固より死を覺悟せねばならぬ。君は靜に語を繼いで「併し、いざ引受けた以上、やつて見やるぞ」おゝそこだ、非常時の疾風怒濤のさ中に、採算を劃つて、一身を犧牲にし、最後の御奉公を臻すべく豪然起つた川島の胸中には燃ゆる信念が渦を捲いて溢れつゝあらう。

林辭任後に於ける後任詮衡の條件は「林陸相の政策方針を全幅的に踏襲し林の達し得ざりし所期の目的を達し得る可能性に富むもの」にあつて、その白羽の矢が君に立てられた譯であるが、この大きな期待が果して、君の卓越した力量と手腕とによつて完璧を期し得るであらうかは、今後に俟たなければならぬ。昨年八月十二日陸軍省に於ける永田軍務局長の奇禍と同時に、林陸相の辭意は既に固く決せられ、後任陸相の詮衡に焦慮した。誰か、關東軍司令官南次郎、教育總監渡邊錠太郎、軍事參議

官眞崎甚三郎、侍從武官長本庄繁、軍事參議官阿部信行、同荒木貞夫、同川島信之、東京警備司令官西義一、朝鮮軍司令官植田謙吉、臺灣軍司令官寺內壽一、參謀次長杉山元、第五師團長小磯國昭、と拉し來つて、君の選任は蓋し好個のものである。

併し岡田內閣の樞要人物であつた、林陸相が頻やつれ、身細る迄努力したが、事志に反し、遂に「國軍の內部に於て、前代未聞の不祥事」を惹起した。人事行政と、幾多の難問題を双肩に擔つて立つ君には、軍政の上に悲悽の決意がなくてはならぬ。君は先に糟糠の妻を失ひ、又次いで、たつた一人の長男を二十六歳でなくした、鰥寡不遇の君が家庭的寂寥を有爲の青年、將校に慰められつゝ、談笑するのを唯一の樂しみとしてゐるが、君の溫情の迸りが玆に胚胎することは疑ひない。極めて無慾恬淡で、寡言實行、誠實敦厚の立派な人格は夙に部內は勿論、廣く國民の認むる所である。

君が年少、陸軍士官學校に人生の駒を振り出してからは、殆んど中央部勤務の連續で、實に幸福に滿ちた行進振りである。然し特によく時代の推移を知り、新知識を吸收し篤學で素養ある君が、今日の信望を以て、著々その實績を收めて行き得ることは確實であらう。四國愛媛の一角で、對岸に血燼る西南戰爭の砲聲をきゝつゝ、靜に母體に宿つた君の斗の如き膽が、帝國陸軍の勢威を負ふて、いま非常時日本の試練に乘せられた。健在を祈つて已まぬ。

昭和十一年一月二十日印刷
昭和十一年一月廿五日發行

定價十錢
送料二錢

著者發行兼印刷人　東京市牛込區南榎町六十九番地　近藤素明

印刷所　東京市芝區田村町六ノ廿一番地　新興社印刷所

發行所　東京市芝區田村町六丁目二一　政治公論社　電話芝二四二四番

法學士　近藤素明著

憲政ノ危機ト

木堂主義

定價十錢

憲政の危機と時局の解剖——憲政の確立——選擧の肅正
提唱の理由——政治的思想と足跡——憲政擁護の主張
銃彈餘塵——殉教の聖者——玉成された人間木堂

非常時局の打開は憲政の更生確立に依りてのみ達成せられむ。憲政の更生確立は木堂主義の宣揚と實現とに依りてのみ達成せられむ。木堂主義とは何ぞや、木堂先生五十餘年の政治的行徑を一貫する信念即ち是也。

と冒頭した著者は紛淆せる時局に鋭俊のメスを揮ひ、肅正運動の核心を剔抉して赤裸々に之を批判し、從來の諸說と全く異つた獨自の觀點から、豐富な教材を拉し來つて憲政擁護の新主義を主張してゐる。苟も憲政を至念するものゝ一讀せざるべからざる近來の快著である。

發行所　政治公論社